



未来を夢見て

2020/7/31 No. 26

大通りの交差点で 子供の命を守るために 事前の一策 事後の百策

昨日の打ち合わせでも、下校時の子供たちのマナーについて、繰り返し話題に上がりました。私も毎日交差点で子供たちの様子を見て、必要に応じて指導していますが、なかなか改善できていないので、頭を悩ませていたところでした。

一つ間違えると命に関わる重大事案なので、もう一度各学級で、現状と課題と改善策について、学年に応じて子供たちに考えさせましょう。

私もそうですが、言われてやることや、強制的にやらされることはすぐ忘れてしまいます。でも、苦勞して自分で身に付けたことや本質を理解できたことは、そう簡単には忘れないものではないでしょうか。

先週、22日の打ち合わせで私から簡単にお話ししたのですが、再度改めて詳しくお話しします。

その日も5時間目が終わって、子供たちが一斉に下校になりました。時間差で、密にならないように配慮して下校させているつもりでも、822名の子供たちが下校するので、学校付近の交差点は当然心配な状況になります。

幸い大通りの交差点には見守り隊の方々に毎日立っていただいています。また、信号のない交差点には徳田教頭先生や安藤教頭先生、島貫先生が連日指導にあたってくださいしています。

その日は私が大通りの交差点で交通指導をしていたのですが、杖をついたおばあさんが、本校の子供たちの集団下校の中に飲み込まれてしまいました。

下校時は特に、開放感のためか信号が変わると周りを見ず走り出す子もいます。こんなときは一人走ると、次々走り出すので、大変危険な状況になります。

そのおばあさんですが、このような状況ですので、信号が青信号になっても、渡ることができませんでした。次の青になるまでの間、次々子供たちが集まってきて、信号付近はたくさんの小野小学校の子供たちで一杯になりました。

もっと早くこの状況に気が付けばよかったのですが、おばあさんの様子に私が気付くのが遅すぎました。私はまず、そのおばあさんにお詫びを伝え、次にやや大きな声で子供たちにお話をしました。**「ここにおばあさんがいます。みなさんが走ると、おばあさんは怖くて横断歩道を渡ることができません。みなさん、どうか、慌てずにゆっくり歩いて渡ってください」**

その場は水を打ったようにしんと静かになり、ほとんどの子供が私を見て話を聞いてくれました。

次に信号が変わって青信号になると、子供たちはおばあさんの歩く速さに合わせるようにゆっくりゆっくり周りを確かめながら歩き始めました。

私は、自戒を込めて「子供のせいにしない」ということを心掛けるようにしています。

自分自身の反省から、子供たちを責める前に、きちんと指導したか、ということに常に自問するように心掛けています。幸いおばあさんは安全に横断歩道を渡ることができましたが、もし、何か起きたら大変なところでした。

小野小学校の子供たちはきちんと話をすると、しっかりと聞いてくれる子供たちです。一方、子供たちへの指導は、毎日の繰り返しで、昨日できていたことが今日できないこともよくあることです。指導と評価の一体化は、学習指導だけでなく生活指導でも大切であること、今更ながら実感している毎日です。

(文責：手代木)

